

# 豊後高田 “昭和の町” 地区 (大分県豊後高田市)

中心市街地

観光

定住促進

完了地区

- 計画期間 平成18年度～平成22年度
- 面積 83.5ha
- 交付対象事業費 1,446百万円
- 市人口 24,092人 (地区内人口 2,964人)

## ポイント

弱みを強みへ転換!! 逆転の発想による魅力溢れるまちづくり・賑わいづくりとして、「豊後高田昭和の町」の取組効果の拡大を図るため、「観光振興」、「商業活性化」、「定住促進」の3つを目標に、中心市街地全体の活性化を目指している。

## 地区概要

本地区は、商業、都市機能が集積した中心市街地で、市の中心部を流れる桂川によって東西に2分されており、桂川西側が「高田地区」、桂川東側が「玉津地区」と呼ばれている。本地区には、8つの商店街が存在しており、高田地区は6商店街、玉津地区は2商店街が活性化の取り組みを行っている。

## 目標

観光拠点施設の整備、魅力ある街並み景観の形成等により、「昭和の町」全体として観光客の増大を目指す。また、これと相まって、各店舗自体の魅力付け等により、商店街が一体となって商業の活性化を目指す。さらに、観光振興及び商業の活性化と相まって、各種都市機能の充実による生活利便性の向上、安全で快適なコミュニティの形成等により、地区の定住促進を目指す。

## 指標

昭和の夢町三丁目館（豊後高田“昭和ロマン蔵”の北蔵）など集客基盤施設の整備、昭和にちなんだイベント、「昭和の町」にふさわしい商店街の街並みづくり及び生活基盤施設の整備を、地元の関係者、商工会議所等の諸団体、行政が一体となって推進することにより、「昭和の町」の魅力増幅を図り、来訪者数の増大、空き店舗の解消、人口の定着を期待する。

指標	従前値	評価値 (フォローアップによる確定値)
来訪者数	249,392人 (H16年度)	409,198人 (H23年度)
空き店舗解消率	2% (H15年度)	48.6% (H22年度)
人口の定着	3,079人 (H17年度)	2,964人 (H22年度)
まちの魅力度	3 (H17年度)	4.5 (H22年度)

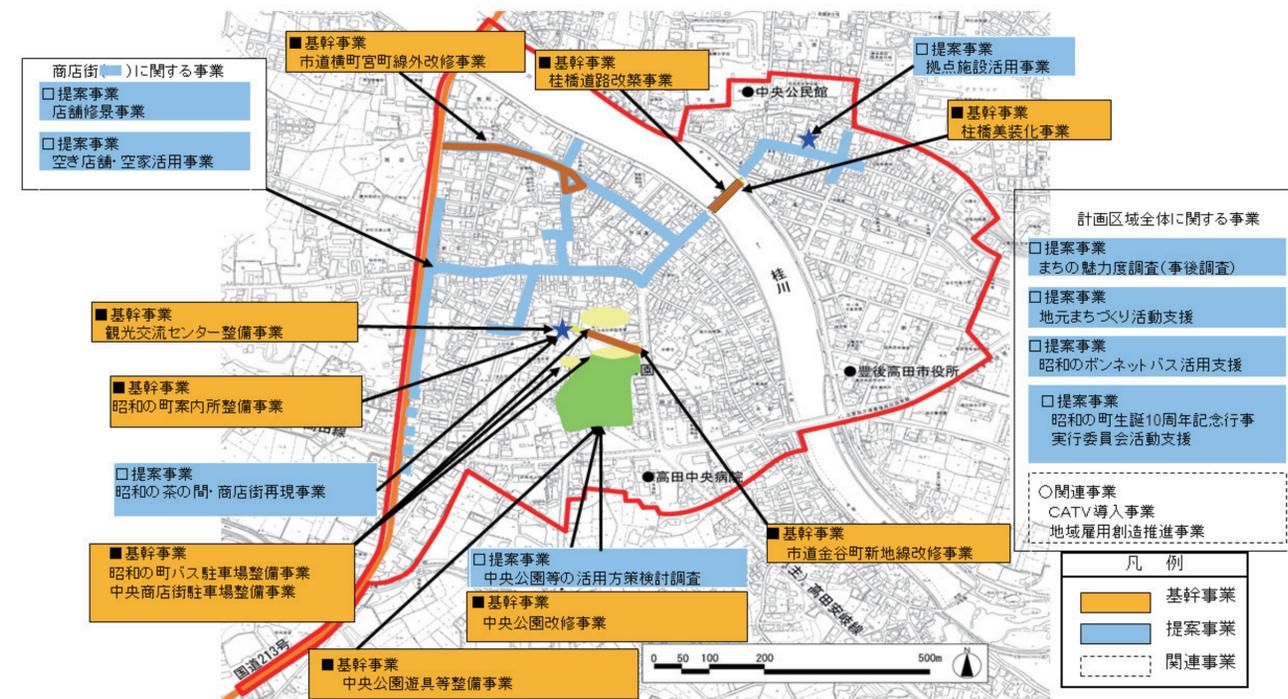
## 事業内容

基幹事業  
(1,255百万円)

提案事業  
(191百万円)

桂橋外2箇所(延長664.8m)、公園(中央公園2.2ha)、地域生活基盤施設(昭和の町バス駐車場・中央商店街駐車場)、高質空間形成施設(桂橋美化、中央公園遊具等)、高次都市施設(昭和の町案内所)、既存建造物活用事業(昭和の夢町三丁目館)

地域創造支援事業(店舗修景事業、空き店舗・空家活用事業、昭和の茶の間・商店街再現事業外2事業)、事業活用調査(まちの魅力度調査外1事業)、まちづくり活動推進事業(地元まちづくり活動支援外1事業)



# 豊後高田 “昭和の町” 地区（大分県豊後高田市）

中心市街地

観光

定住促進

## 完了地区

- 計画期間 平成18年度～平成22年度
- 面積 83.5ha
- 交付対象事業費 1,446百万円
- 市人口 24,092人（地区内人口2,964人）

## 地区の現況と課題

商店街の活性化に、商店街が最も栄え華やかだった“昭和30年代”をテーマとして平成13年に取り組みをはじめた「豊後高田昭和の町」。平成17年には観光客は25万人を超え、かつての賑わいを取り戻しつつある。

一定の成果を上げた「昭和の町」の取組効果を中心市街地全体へと拡大させるため、「昭和の町」を形成する店舗の拡大、ソフトとハード整備を進めることにより、観光客の一層の増大を図る必要がある。また商業機能とその他の都市機能とを有機的に結びつけ、地区全体の商業活性化につなげていく必要も求められている。

## 提案事業の特徴

### 昭和の茶の間・商店街再現事業（昭和の夢町三丁目館）

新たな観光交流拠点として、中心市街地に残された旧農業倉庫を活用し、昭和30年代の民家、商店等を再現した、目と耳と体で感じる体感施設を整備。「昭和の町」の魅力向上を図った。

### 店舗修景事業

時代に取り残された商店の古さを隠すため、後の時代に付けられた看板（パラペット）を取り外し、昭和30年代の趣ある商店へ再現するべく、店舗等の前面にかかる看板、建具等の改修を行った。昭和の4つ（建築、歴史、商品、商人）の再生の一つ（建築再生）。

### 昭和のボンネットバス活用支援

平成21年度に導入した「昭和のボンネットバス」を活用した新たなイベント等の事業に対して支援を行った。「昭和の町」の新たな魅力のツールとなり、中心市街地の活性化に貢献した。

## まちづくりの効果、持続的取り組み

市民のまちづくりに参加する機会の増加をきっかけに、自ら積極的にコミュニティ活動へ参加する市民が増えた。

また、観光拠点の充実や店舗の修景、新規出店などにより、来訪者数や来訪者の滞在時間が増加、一人当たりの消費金額も増加した。

さらに、「昭和の町」の商店街が自主的にイベントを行うなど、一体化が図られ、「昭和の町」の魅力向上、ひいては市の観光振興にも寄与している。

これらの成果が今後も持続するように、より一層「昭和の町」のブランド力を高め、観光客や市民に魅力ある商店街、個店づくりといった取り組みをさらに推進していく。



▲ 多くの観光客でにぎわう「昭和の町」



▲ 既存建造物活用事業／昭和の茶の間・商店街再現事業（昭和の夢町三丁目館）



▲ 店舗修景事業



▲ 昭和のボンネットバス活用支援

## 永松博文 豊後高田市長のコメント

衰退する商店街の活性化に、観光という要素を取り入れ取り組みを開始した「豊後高田昭和の町」の成果を、中心市街地全体に波及させるべく、平成18年に策定した都市再生整備計画と、翌19年に内閣総理大臣の認定を受けた「中心市街地活性化基本計画」に基づき、戦略的に各種事業を推進してまいりました。

計画期間中、景気低迷等の影響を受け、観光客の減少や、団体客割合が減少し、個人客割合が増加するなど、当初予想していなかった観光トレンドの変化がおき、その対応などで大変苦しい時期も経験いたしました。しかし、その都度計画を前向きに“校正”。まちの“進化”に努め、地元住民、商工会議所等の関係諸団体と一丸となって各種事業を推進してまいりました。ここ5年間で「昭和の夢町三丁目館」の整備、中央公園の全面リニューアル、桂橋の架け替えなど大型プロジェクトを進め、中心市街地は大きく様変わりし、まち全体の魅力も高まりました。昨年、「昭和の町」は誕生から10周年を迎え、年間観光客数も、悲願の40万人を達成することができました。このような大きな成果を上げることができ大変うれしく思っています。今後もさらなる中心市街地の活性化を図るため、引き続き官民一体となって取り組んでまいります。

## 野田洋二 豊後高田市中心市街地活性化協議会会長のコメント

これまで、商工会議所・豊後高田市観光まちづくり株式会社・事業者など関係者が一体となって、「市民協働によるまちづくり」という基本認識のもと、各種施策が確実に展開されてきた結果、観光振興、商業活性化が図られ、まちのにぎわい創出や地元住民のまちづくりに対する意識の向上など、大きな成果となって現れています。本協議会は、今後も市と十分連携し、各種施策の進ちょくや新たな状況に対応していくため、鋭意協力を行ってまいります。